良寛さん（りょうかん）

～てんてん手毬はどこいくの？～

作・演出・振付け　知念正文
音楽　雨宮賢明
照明　佐久間秋一
音響　かとう知恵理

絵＝今田まり

若き僧、遍澄さんは15歳で、良寛さんに弟子入り志願。
しかし、良寛さんは、日本一の僧侶!? と言われながら、汚い格好、お寺を持たない、お経も読まない。泥棒に布団をくれてやり、自分は寒さに震えている。
出世やお金儲けは、まるで頭にない・・・自然と共に生きていた。
子ども達と手毬で遊び、村人達と語り、
そして、今度は、なんと40歳も年下の貞心尼さんと恋に落ちちゃった！
そこへ、大地震が・・・
笑いと生きる力が溢れる舞台。ああ、良寛さんって良いなあ!!
大人が、みいんな、良寛さんみたいだったら、戦争なんておきない。

アンケートより

- 良寛さんがおっちょこちょいで面白かった。
- 最高に楽しめました。涙が出るほどおかしくて、声を殺して笑い転げました。
- 元気を頂きました。自然に、素直に、子ども達の幸せを願って生きたいと思います。平和が一番。
- パワーを頂きました！すごい動きです！コロナ・戦争を忘れていました！笑いも涙もでました！
- 愉しいお芝居有難うございました。良寛さんのお名前は知っていましたが、こんな方だったのですね。知念さんが演じられてほっこり感が満載でした。
- 七人しかいらっしゃらないにも関わらず、一人何役もの役をすべて良い演技で表現。照明の一つ一つにもこだわりがあり凄いな！ 迫力が凄いなと思いました。
- 小3次男「なんだか凄かった」。中3長女「早着替えがハンパない。あと、修行のパフォーマンスが凄い！ 体力が凄い」。5歳次女は言葉では無く…その後、ひたすら公園で走り回り…ファミレスで食事をした後に普段は絶対にやらないのですが食後に合掌！ をして、ご馳走様でした…と（笑）。それぞれの年代で、それぞれの受け止め方が!!
- 舞台には四本の〈青竹〉を配し、禅僧・良寛の〈草庵〉に見立てて、村人・子ども・弟子・尼僧などとの交流がイキイキと描かれていました。座長の知念正文さんの脚本・演出・振り付けは冴え渡っており、雨宮賢明さんの音楽も楽しく、心躍ります…!! 速いテンポで笑わせながらのダンス・ミュージカルは流石で、出演した役者さんたちの〈早替わり〉の超絶技巧と演技力・身体能力の高さには改めて〈ビックリ〉いたしました！
  戦争と疫病の蔓延するこの暗い世相の中、病み上がりのこの私の身体にもとても良い〈刺激〉となりましたが、この『作品』が、さらに多くの方々によって鑑賞され、話題となっていく事を心から願っております！

劇団鳥獣戯画◉1975年創立。ストレートプレイからミュージカルにコンサート、現代歌舞伎、狂言、人形劇に紙芝居、さらにはサーカス芸まで、何でもござれの世界で唯一無二の劇団。現代を見つめ、よりよく生きる、知恵と勇気と希望が湧く舞台を創り続けています。

劇団鳥獣戯画　〒358-0023　埼玉県入間市扇台4-4-3　TEL＆FAX.04-2960-6000
詳しくはHPをご覧ください⇨ http://www.chojugiga.co.jp